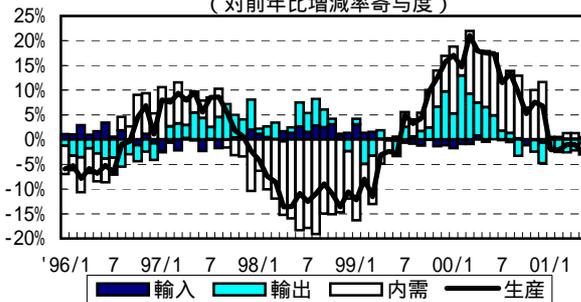


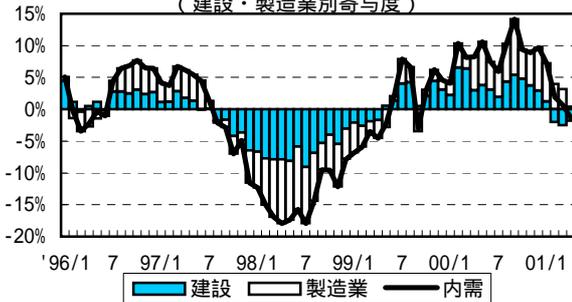
鉄鋼業界の動向

- 5月の粗鋼生産は、在庫増、需給緩和を受けて各社が引き続き生産調整を行った結果、889万9千tと前年同月比2.6%の減少となった。炉別で見ると電炉鋼が前年同月比8.3%減の246万7千tとなったのに対し、転炉鋼は同0.4%減の642万5千tと小幅の減少にとどまっている。
- 内需（4月普通鋼受注）は、前年同月比1.3%減と99年9月以来の前年比マイナスとなった。建設業向けの減少（同0.5%減）が続く一方で、製造業向けでは船舶（同17.9%増）が引き続き好調だったものの、自動車（5.5%増）の伸び幅が縮小し、電気機械用、産業機械用、容器用などその他は前年比割れとなり製造業向けは2.9%増にとどまった。今後も設備投資の減少、国内経済の減速の影響で内需は減少する見通し。
- 外需（全鉄鋼輸出、5月）は、前年同月比1.8%減となった。ダンピング調査の続く北米向けが13カ月連続の前年同月比減（4.8%）となったが、主力のアジア向け（中国含む）はインドネシア、フィリピンなどASEAN向けが減少したものの、高炉各社による韓国、台湾などへの半製品輸出が増えているため、アジア向け全体ではほぼ前年同月並みとなった。
- 5月の普通鋼国内出荷は、前年同月比0.8%増と22カ月連続で増加となったものの、高い水準での生産が続いているため、国内在庫は14カ月連続で前年の水準を上回っている（前年同月比9.1%増）
- 市況は、依然として在庫過剰感が払拭できず薄板、厚板などが値を下げた。H形鋼、棒鋼はメーカーが減産に取り組んだため在庫は減少しているものの、今後も需要の回復が見込めないことから市況は弱含みで推移している。

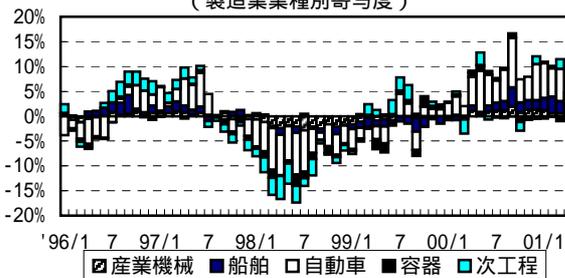
【図表1】粗鋼生産
(対前年比増減率寄与度)



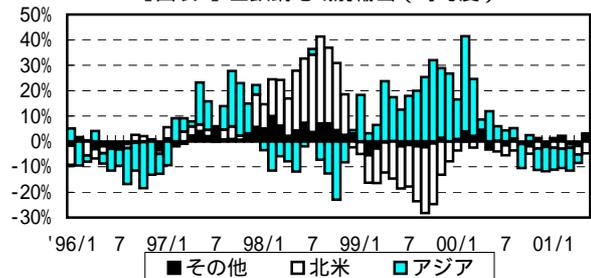
【図表2】普通鋼受注（内需）
(建設・製造業別寄与度)



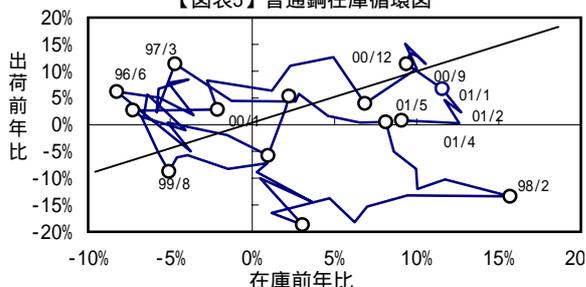
【図表3】普通鋼受注（内需）
(製造業業種別寄与度)



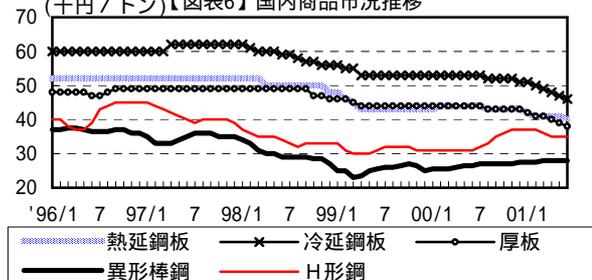
【図表4】全鉄鋼地域別輸出（寄与度）



【図表5】普通鋼在庫循環図



【図表6】国内商品市況推移
(千円/トン)



(備考) 鋼材倶楽部・日本鉄鋼輸出組合「鉄鋼需給統計月報」、日本貿易月表により作成。

【調査部(産業調査担当) 小林 幹昌】